

こんなところに 市民憲章

1. 富士山のように たくましく
働くよろこびをもち
健康な家庭をつくります



健康 食べて 愛 食べて

東京電力のTEPCOホールに集まった八組のご夫婦。栄養士紺野祐子先生の開く「共働き夫婦のための、らくらくクッキング」の実習生です。

「健康で働くためには、食生活が大切。カルシウムは多く、肉や塩分のとりすぎには気をつけて」と、アドバイスを受けてから、料理づくりに取りかかりました。メニューは、イワシのかば焼きどんに新キャベツとシラスの酢の物など。

広見本町の塩澤辰也さんと博美さんは「遊び心でやってきました」と、話しながらも、手際のいいこと。



▲研修生の皆さんと総務部の遠藤さん(左端)

研修生代表は、郭長征さん(二十四歳)、佟越さん(三十二歳)、荊華さん(二十六歳)、孫宏さん(二十四歳)、陳聰さん(二十歳)の五人です。

—— 日本語を覚えましたか

「日本語は難しいです。一番難しいのは敬語。毎晩、八時ころから十一時くらいまで勉強します。文法が中国と違うので、苦勞します」

—— 禁煙権って知ってますか？

「中国人は、お礼や習慣としてたばこを使います。日本に来てから、一日十本に減らしました。やめたいですけど。」

日本の女性は、とても大勢たばこを吸っていますね。中国では、少ないです」

—— 日本食はどうですか

「大体何でも食べられます。おいしいものは、焼き魚。納豆は、食べられません」

—— 休日はどうしてる？

「テレビを見てもあまりわからないので、洗濯や掃除をして過ごします。また、友達のところへ行きます」

—— 働き過ぎ(日本)だと言われますが

「日本人は、仕事に対してとてもまじめです。日本の民族精神が見えます。会社は、品質に対して厳しいです。でも、眠そうです。バスや電車の中でもよく眠って、大変疲れた感じがします」

—— 富士市の第一印象は

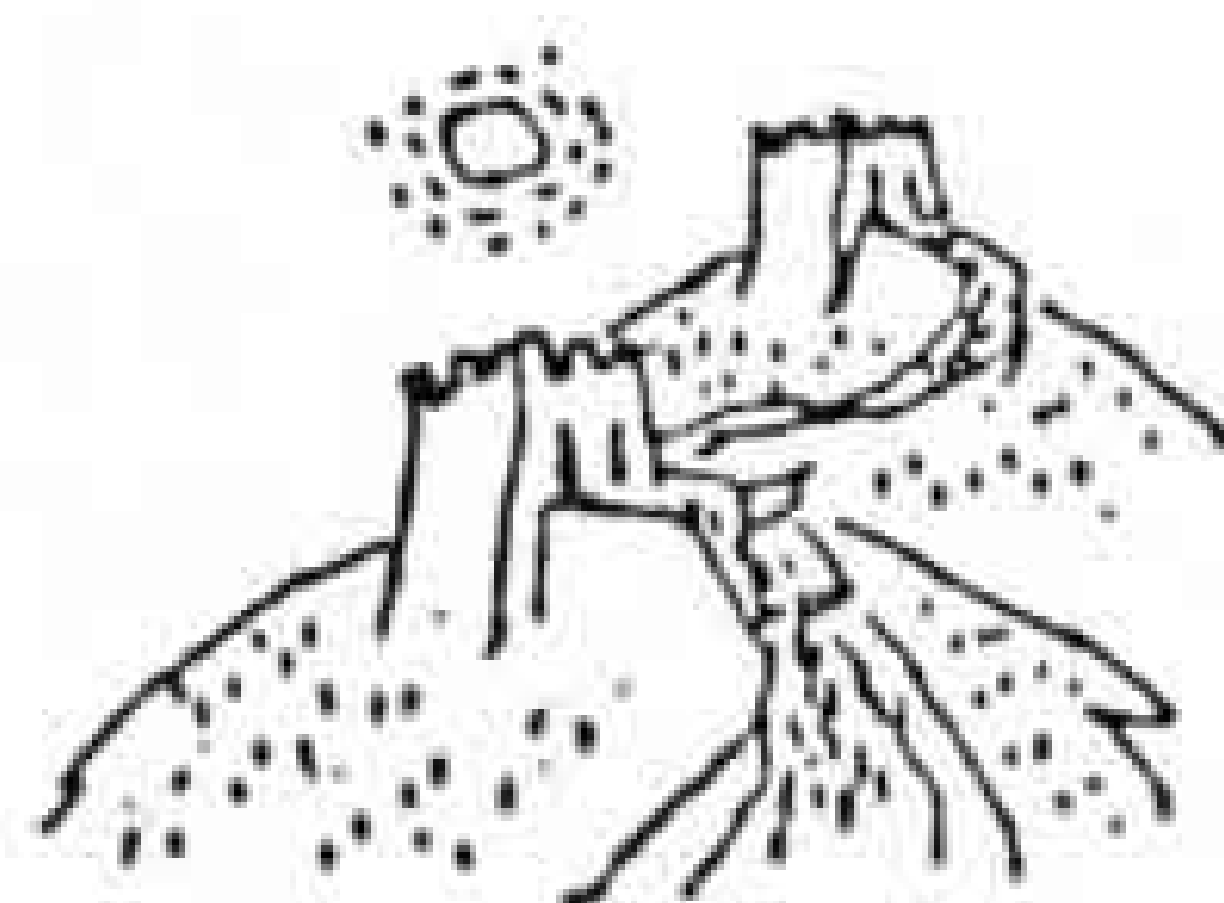
「富士山がきれいです。新緑もきれいです。富士市の人は親切で、会社の人たちも、私たち研修生に友好的です。落ちついた気持ちで研修しています」

—— ありがとうございます

一番難しいのは敬語

|| 初めまして!! 市民一年生です ||

ことし一月から、商工会議所は中国人研修生の企業受け入れ事業を行っています。研修生は、仕事はもちろんのこと、日本語の勉強や生活に必要なマナーを身につけようと、忙しい毎日です。高木産業におじゃまして、お話を伺いました。



歴史を伝える建造物を
移築復原する宮大工

影山明男さん

(富士上中・56歳)



歴史を伝える。広見公園のふるさと村。ここに、「種代官植松家住宅」と「旧独楽荘石倉」が、移築復原されました。チョウナで削った太いはり、屋根には、換気用の「越屋根」をつけた珍しい構造で、江戸末期の建物だと言われています。

請け負ったのは、岩本の宮大工の棟梁影山明男さん。左官、かわら、石屋さんなど、作業する人や建造物のすべてに責任を持つ棟梁。「いい勉強になったね。二重三重に曲がった木の癖を、うまく使って組んである、手間暇かけた建物。」

見えないところで補強しながら、少しでも多くもとの木材を使っ、昔と同じような工法で復原しようとする。しかし、仕事は復原より、解体の方が難しい

棟 梁の言い分。

実相寺の宮大工の家に生まれた影山さん。「門前の小僧」で仕事は体で覚えたと言います。

「大工のよさって『人のお金で道楽をさしてもらおう』ってことかな。自分の思ったものをつかって、仕上がったときに、お客さんに喜んでもらえたら満足。まあ、好きでなくちゃあできない仕事だ」

影山さんのところでは、今、七人の大工さんが働いています。「木を見て、適材適所に生かすのが、腕のいい大工。これは、人にも応用できる。人を使う気構えを持たないと。癖がなさそうだなって、とんでもない。どなり散らすこともあるが、後のフォローはしっかりとね」